

【アセスメントプラン】

芝浦工業大学は、大学、教育課程レベル（学部、学科、課程、大学院研究科、専攻）の定めるディプロマ・ポリシー（DP）および学修・教育到達目標（mDP）への到達度を客観的かつ適切に評価・可視化し、教育活動を改善していくことを目的として、アセスメントプランを以下のとおり定めます。

No	方法・指標	実施時期	対象課程 学部・大学院・両方	対象	実施責任部署	アセスメント対象										結果の活用	その他（URLやエビデンス等）		
						直接指標/ 間接指標	大学レベル	学位プログラム レベル	授業科目レ ベル	学部長・研究 科長会議	教授会・理工 学研究科委員 会	課程教育プログラ ム運営会議・各学科 カリキュラム検討会 議・専攻会議	その他（英語・ 数学・物理・教 職課程・各部 門）						
1	入学試験	入学前	両方	新入生	学部：各学部/アドミッションセンター 大学院：各専攻/理工学研究科	直接指標		○		○	○	○	○	○	○	○	○	各入学試験について、科目ごとの得点や受験生の履修科目等を分析。分析結果を学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議、専攻会議にて報告し、各学部・専攻による学習サポートや初年次教育などのカリキュラムの改善、自己点検・評価に活用。	
2	入学前教育	合格通知時（推薦・特別入試における）から入学前	学部	新入生（推薦入学）	学部：教育イノベーション推進センター/教育イノベーション課	直接指標		○		○								学生が自身の得手不得手を把握し、それを改善することで、入学後に必要とされる素養を身に付けることができる。また学びの習慣の醸成と各学科・課程（コース）に所属する学生の学習タイプを把握するために実施。分析結果を学部長・研究科長会議、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、各学部による学習サポートや初年次教育などのカリキュラムの改善、自己点検・評価に活用。	https://www.shibaura-it.ac.jp/assets/2026_admission_procedure.pdf
3	入学時 数学学力テスト	入学時	学部	新入生	入学時数学学力テスト運営チーム/（大宮学専・学生課も豊洲学生課	直接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	学部新入生を対象とし、入学後授業開始前のガイダンス期間に、数回の検分と検分を中心に学力試験を実施。分析結果を学部長・研究科長会議、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、前期の検分検分等を学ぶ上で必要となる内容・レベルで、入学時における学生の学力把握にも利用している。また、各学部による授業のクラス分け、学習サポート、初年次教育などのカリキュラムの改善、自己点検・評価に活用。	https://www.shibaura-it.ac.jp/examines/undergraduate/entrance_procedure/guidance.html#guidance_03
4	TOEIC IPテスト	入学時 各学期末	学部	新入生：入学時 各学期末：学部の英語科目履修者は必須 スタディサプリ（国際部主催の講座）受講者は受験推奨 ※希望者も申込みにより受験可能	各学部における英語科目基幹教員/大宮学専・学生課も豊洲学生課	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TOEIC IPのテストにより学生の語学力の伸長を測る。学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、英語クラス編成、海外派遣プログラム参加促進、自己点検・評価等に活用。	
5	PROG	新入生：入学時 ※ 修士含む 在学生：4.5月	両方	新入生・3年生・大学院生	各学部・理工学研究科/大宮学専・学生課も豊洲学生課・大学院課	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	PROG（Progress Report on Generic Skills）は、学生大卒のジェネリックスキルを（リテラシー・コンピテンシー）の2観点で測定するアセスメントテスト。分析結果を学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、汎用的能力向上の個別支援計画策定に活用。	
6	K6スクリーニングテスト	新入生：入学時 在学生：春学期開始前	両方	新入生：入学時 在学生：春学期開始前	ヘルス&ウェルビーイング・トータルサポート室	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全学生を対象とし、K6スクリーニングテストを実施し、学生の心理的ストレスや精神的不調の程度を測定している。全学生の傾向に変化が見られたタイミングで、学部長・研究科長会議、教授会・理工学研究科委員会に結果を報告している（現状は、毎年報告を実施していない）。	
7	学生自身の学修目標とキャリアプラン	新入生：入学時 在学生：春学期開始前	学部	新入生：入学時 在学生：春学期開始前	教育イノベーション推進センター/教育イノベーション課	間接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	新入生及び在学生の学修目標やキャリアプランに関する調査。分析結果を学部長・研究科長会議、教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、学生相談やキャリアガイダンスの運営、SITポートフォリオ支援（学習支援システム）、初年次教育の充実などに活用。	https://www.shibaura-it.ac.jp/examines/undergraduate/entrance_procedure/guidance.html#guidance_03
8	気づきアンケート（春学期）	春学期履修登録前	学部	2年次以上	教育イノベーション推進センターIR部門/教育イノベーション課	間接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	学生サービス全般、英語の学習状況、海外プログラム、グローバルコンピテンシー、大学院進学に関する意識調査。学生自身によるグローバル意識や英語力について聞く設問も設けている。分析結果を学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会にて報告している。	
9	気づきアンケート（秋学期） （大学IRコンソーシアム）	7-9月	学部	1-4年次	教育イノベーション推進センターIR部門/教育イノベーション課	間接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	大学IRコンソーシアム学生調査（全国学生調査の役割を含む）の役割（学習状況、学びの振り返り、学習時間、教育環境）の回答を集計・分析し、大学教育・環境等の改善に役立てる。分析結果を学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、年度末学習成果の分析、次年度カリキュラム改訂、学生サポート施策立案、大学設備、自己点検・評価等に活用。	
10	カリキュラムの整合性チェック	7-9月	両方	全学部・コース・専攻 ※当該年度入生対象の最新カリキュラム	教育イノベーション推進センターカリキュラムマネジメント部門/教育イノベーション課	間接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	カリキュラムの整合性チェックと改善のサイクルの中で、「学修成果の把握・可視化」と、可視化情報に基づく教育課程の点検・評価・改善を継続的に進めている。各学科・コース・専攻に対して、当該年度の新生生に対する最新のカリキュラムについて、カリキュラム不整合等を指摘し、科目配量・履修モジュール見直し、学習目標と評価方法の整合性強化に活用している。特に2025年度から、各学科・コースの主要授業科目について、当該科目の成績評価等を統括・把握する基幹教員を明確にする。	
11	カリキュラム評価に関わる学生インタビュー	春学期	学部	・本学学部を卒業し、修士課程へ内部進学した学生 ・自身が所属する課程・コース以外で履修されている授業科目を積極的に履修している学部生	教育イノベーション推進センターカリキュラムマネジメント部門/教育イノベーション課	間接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	本学部を卒業し、本学修士課程へ進学した学生数に付して、所属していた各学科・コースのカリキュラムを中心に、ヒアリング調査を実施。ヒアリング結果をまとめて、各学科・コースへのフィードバックし、カリキュラムの改善に活用する。また、あわせて、主に学部3年生を対象として、自身が所属する課程・コース以外で履修されている授業科目を積極的に履修している学生の学修状況や履修意図に関する調査を実施し、その結果を教育改善に活用する。各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、学修継続意欲向上施策、学部・修士一貫教育のカリキュラム構築、進学ガイダンス改善に活用。	
12	自己評価・授業評価アンケート	各学期末	両方	全学部生・大学院生 ※学生が履修した科目全て	各学部・科目担当教員/大宮学専・学生課も豊洲学生課	間接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	学生が、当該授業の授業外学習時間や満足度に加え、シラバスにおける達成目標毎に自身がどの程度達成したかを5段階評価で回答。“何を学んだのか”を振り返り、自己評価することで、学んだ内容を認知し、次の学びのために何が必要かを自覚することを目的としている。さらに、教員による授業評価と学生による履修評価の両方の意識等を確認する。各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、教員 F/D（授業改善研修）と教育方法改善、各科目の授業運営 PDCA に活用。	
13	SITポートフォリオの学修履修等の直接指標	随時	両方	全学部生・大学院生	各授業科目担当者	直接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各科目担当の教員が、科目履修者の自己申告を確認し、授業改善に役立てている。	
14	各年次の修得単位数、成績評価結果、GPA	各学期末	両方	全学部生・大学院生	各学部・理工学研究科	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、学修進捗不良者の早期把握とサポート、履修意識ガイダンス向上に活用。	
15	留年率・休学率・退学率・卒業率・学位取得状況	年度末	両方	全学部生・大学院生	各学部・理工学研究科	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各学科・コース・専攻の留年率・休学率・退学率・卒業率・学位取得状況を学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告している。この結果を活用し、各学科・コース・専攻のカリキュラム、履修指導、学習サポート体制等の改善に活用している。	
16	修士論文や博士論文審査における専攻ルーブリック	年度末	大学院	大学院生	各専攻/大学院課	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各専攻会議にて報告し、研究指導体制強化、学位審査基準透明化と質保証に活用。	
17	就職状況・進学状況	年度末	両方	全学部生・大学院生	各学部・理工学研究科	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各学科・コース及び専攻に所属する学生の就職先及び進学先について、学部長・研究科長会議、教授会・理工学研究科委員会にて報告し、各学科・コース及び専攻のカリキュラム改善に活用している。	
18	卒業時アンケート	1-3月	両方	学部及び修士の卒業（修了）予定者	教育イノベーション推進センターIR部門/教育イノベーション課	間接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	学部・大学院で受けた教育等を通して、学生がどういった能力（工学・理工学に必要な基礎知識や専門知識、汎用的能力など）をどの程度身に付けたかを把握し、（あるいは向上したか）、学部・大学院教育の適正性を評価するとともに、より実質的な教育プログラムの構築を目的し、教育改善を進めることを目的として実施している。また、教育研究、大學生活全般の満足度やキャリアに関して、合わせて調査を実施している。 https://exploratory.it/dashboard/6678715061536728/rv4Apr14n	
19	卒業生アンケート	1-3月	学部	卒業後：5年、10年、15年が経過した卒業生	教育イノベーション推進センターIR部門/教育イノベーション課	間接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	本調査は、卒業生から意見を伺い、本学の教育成果の検証と教育の改善を進めることを主な目的としている。対象は、当該年度時点で卒業後5年、10年、15年の卒業生を対象。分析結果を学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、卒業後の教育効果の追跡調査、社会ニーズ反映、学習成果の社会的認知向上に活用。 https://www.shibaura-it.ac.jp/assets/sotugyoukaisaku-to.pdf	
20	企業評価アンケート	7-8月	両方	企業	キャリアサポートセンター/就職・キャリア支援部	間接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	企業の採用担当者へ向けて実施する調査。企業が本学学生へ採用時に求める能力や卒業生に対する評価について、調査を実施している。分析結果を学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会、各課程教育プログラム運営会議及び各学科カリキュラム検討会議にて報告し、教育プログラム、産業界が求めるコンピテンシー、キャリア教育科目の見直しに活用。 https://www.shibaura-it.ac.jp/assets/kyougiqaunkai-to.pdf	
21	多文化共修（国際）科目の受講率	年度末	両方	全学部生・大学院生	国際交流センター/国際部	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎年、全学生の多文化共修（国際）科目の履修率を累計。結果をグローバル推進本部会議、学部長・研究科長会議、各学部研究科に報告し、学内のプログラム整備・支援制度改善に活用。	
22	CEFRスコア	学生から自己申告 ※ TOEIC IPテストを含む	両方	全学生	国際交流センター/国際部	直接指標		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7のTOEIC IPのテストに加え、TOEICテスト（外部受験）、TOEFL、英検など学生が頻りに受験した英語に関する外部機関による試験の結果をエビデンスと共にSITポートフォリオを通じて大学へ報告する。大学は、それを通じて、全学生のCEFRスコアを把握する。分析結果はグローバル推進本部会議、学部長・研究科長会議、各学部研究科に報告し、英語科目のカリキュラムの改善などに活かす。	
23	APRIN受講状況	6-7月	大学院	全大学院生	大学院課	直接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	研究倫理教育の一環として、大学院修士課程1年生は、研究倫理教育APRIN e-ラーニングプログラムの受講を必須としている。	
24	学生自治会との連絡会議（話し合い）	11月頃	両方	学生自治会所属学生	学長室・学部長・理工学研究科・学生センター/大宮学専・学生課も豊洲学生課	間接指標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	学生自治会が全学生に実施した調査結果に基づいて、カリキュラムや授業改善等について、教学執行部と話し合いを実施する。上がった要望等について、学部長・研究科長会議、各学部教授会・理工学研究科委員会にて報告し、全学的なカリキュラム全般、学生参加による学習環境改善、課外活動支援・キャンパスライフ施策立案に活用。	